

パブリックコメント実施報告

「美浦村観光振興基本計画」に関するパブリックコメントの募集を下記の要項で実施いたしました。

募 集 期 間	令和8年2月6日（金）～令和8年2月26日（木）
閲 覧 場 所	美浦村役場経済課、中央公民館窓口、みほふれ愛プラザ、美浦村ホームページ
意 見 提 出 方 法	<p>閲覧場所に備え付け、またはホームページからダウンロードした「パブリックコメント用紙」に住所、氏名、連絡先（電話番号・メールアドレス）、意見をご記入の上、以下のいずれかの方法で提出。</p> <p>(1) 経済課窓口へ直接持参 (2) 閲覧場所に設置している回収箱への投函 (3) 郵送 (4) F A X (5) 電子メール</p>

1 実施結果

提出方法	人数	件数	意見を反映した件数	区分		
				A	B	C
直接持参	0人	0件	0件	0件	0件	0件
郵送	0人	0件	0件	0件	0件	0件
ファックス	0人	0件	0件	0件	0件	0件
メール	3人	8件	4件	4件	4件	0件
回収箱	0人	0件	0件	0件	0件	0件
合計	3人	8件	4件	4件	4件	0件

区分について

- A : 意見を案等に反映したもの
- B : 参考意見として承ったもの
- C : 質問など、その他のもの

2 美浦村観光振興基本計画（素案）に対して提出された意見とその意見に対する考え方

別紙のとおり

美浦村観光振興基本計画（素案）に対して提出された意見とその意見に対する考え方

No.	意見の概要	村の考え方	区分
1	<p>コメント失礼致します。</p> <p>ウマ娘コラボイベントは、計画の中に盛り込むと知る方が増えると思います。経費等課題がございますが、贈呈品（クリアファイル）の人気はかなりあったみたいです。</p> <p>イベント参加者はほぼ県外の方で、常磐線、JRバス・タクシー（知らない人同士で相乗り）を乗り美浦村にアクセスしていました。参加者とお話しましたが、美浦村に移動するのに大変という声もあったようです。あとスタンプバス停とクリアファイルの種類を増やすと面白いと思います。</p> <p>また、訪日外国人観光客（インバウンド）の需要、コロナ収束後、増大しておりますので強化していけば美浦村もさらに盛り上がる気が致します。外国人観光客が喜ぶ歴史や体験イベント等訪日外国人向けにどこかの廃校になった小学校を利用し体験授業的なイベントをしていて人気があるとニュースで流れているのを目にしましたが、安中小学校、木原小学校利用し同じことをすると面白いと思います。あくまで意見です。気にしないでください。</p>	<p>【IP イベントについて】</p> <p>5年間にわたる計画であり、異なる IP コンテンツでイベントを実施する可能性もあることから、「IP コンテンツ」の記載に留めております。IP イベントについては引き続き、村民へは広報誌等で周知を図るとともに、来訪者に対しては美浦村に訪れるきっかけとなるよう展開してまいります。</p> <p>【交通アクセスについて】</p> <p>庁内で連携しながら、次年度以降、施策を推進していく際の参考とさせていただきます。</p> <p>【訪日外国人観光客について】</p> <p>受入体制や需要の観点から、今回は特に外国人観光客をターゲットとして設定はしておりませんが、社会情勢や国の動向等も踏まえながら、将来的には幅広い可能性を検討していきます。</p>	B

2	<p>本計画において、人口減少下における美浦村の持続性を見据え、「交流人口・関係人口の創出」を観光政策の柱に据える点については方向性として賛同いたします。</p> <p>一方で、計画全体を通して、関係人口創出の具体的な手法が、「滞在モデルの造成」「宿泊施設・設備の検討」「飲食・物販の充実」など、来訪・滞在・消費を前提とした従来型観光モデルに依拠している印象を受けました。人口減少が進行し、将来的に維持管理コストや人材確保がより困難になることを考えると、恒常的な施設整備を前提としない、低コスト・高頻度一時利用型の関係人口創出手法について、より明確に位置づける必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、新たな観光施設や展示施設を整備した場合、建設時には一定の経済効果が見込める一方で、完成後は維持管理費・更新費が恒常的に発生します。人口減少が進む中で、来訪者数が想像を下回った場合、その負担は将来的に村の財政を圧迫する要因となります。道路網の拡充や道幅の拡張は一見アクセスの向上に寄与するよう見えますが、実態として「快適に素通りされるためのインフラ」を整備していることに他なりません。美浦村が持つ本来の静謐さや文化的な奥行きがスピード感のある道路整備によって損なわれることを懸念いたします。</p> <p>それゆえ、本計画においては大規模な箱もの整備には慎重であるべきであり、将来にわたる維持管理コストの負担を十分に考慮した、持続可能な施策を優先すべきです。既存の観光資源や、現在進められている小学校跡地利用においても、新規のハード整備に頼るのではなく、「今あるものをどう活かし、どう住民と来訪者の交流に繋げるか」というソフト面の充実こそが、美浦村らしい観光振興の形であると考えます。</p>	<p>本計画において、村として観光の新たな施設整備等は想定しておらず、すでに集客力のある「JRA 美浦トレーニング・センター」や「大山スロープ」、「大山湖畔公園」、不定期で開催する「IP イベント」等の利用者、利用が見込まれる層に対して、美浦村そのものの魅力をアピールしていく、というアプローチを取っております。</p> <p>その上で、P26～P28 に記載の重点プロジェクトのとおり、段階を踏んで来訪者と美浦村・村民との繋がりを強め、関係人口を創出していきたいと考えております。</p>	B
---	--	---	---

3	<p>【関係人口創出における「低コスト・高頻度」施策の必要性】</p> <p>「稼げる観光」を掲げる一方で、宿泊施設や設備整備の検討が含まれていますが、これらは整備後の維持管理費・人件費が恒常的に発生する施策であり、中長期的な財政負担との整合性についてより慎重な検討が必要と感じます。特に、来訪者数が季節やイベントに左右される地域特性を踏まえると、常設施設による対応ではなく、イベント型・季節限定型・既存資源の一時活用など固定費を極力発生させない施策を主軸に据える選択肢も、計画段階で明示的に検討されるべきではないでしょうか。</p> <p>例えば、恒久的な施設を新設するのではなく、年に数回のイベントや祭りを開催することで、その期間のみに公共空間を活用し、多くの来訪者を呼び込むことが可能です。内容は必ずしも伝統行事である必要はなく、食をテーマにした催しや参加型イベントなど、企画次第で低コストかつ柔軟に実施できます。このような施策であれば、財政負担を抑えつつ関係人口の裾野を広げることが可能となります。</p> <p>上記を踏まえ、特に 24 ページの「持続可能な観光推進体制」に関連して以下の視点を強調します。観光を単なる「集客イベント」で終わらせないためには、来訪者が村の日常に溶け込み繰り返し訪れる「高頻度な接点」の設計が不可欠です。莫大な投資を要するハードの整備を待つのではなく、既存の地域資源や空き資産を活用した、初期投資を抑えた(低コストな)体験プログラムの試行を優先すべきです。</p> <p>成功の指標を「一度きりの大規模集客」から「小規模でも継続可能な経済循環」へとシフトし失敗を恐れず小さく試行錯誤を繰り返す体制こそが、本計画の掲げる「稼げる観光」の真の実現につながると確信します。</p>	<p>【宿泊施設の整備について】</p> <p>施策 16 に宿泊施設の検討では、既存施設の活用を主として記載しており、現時点で、村としてハード整備を行うことは検討しておりません。</p> <p>【関係人口創出の施策について】</p> <p>ご指摘のとおり、本計画では、来訪者に何度も来訪してもらい、関係人口に繋げていくことを目指しています。体験プログラムの造成は、計画期間中の確実な実現を図るため、重点プロジェクトとして位置付けており、関係者と連携した取組を進めてまいります。</p>	B
---	--	---	---

4	<p>【デジタル技術を活用した非来訪型・準来訪型の観光の可能性】</p> <p>イベントについて、本計画では主に「来訪のきっかけ」や「PR 手段」として位置づけられています。イベントそのものを関係人口創出の中核的な仕組みとしてとらえる視点も重要と考えます。恒常的な施設整備を伴わず、「その時・その場所で人が集い、体験し、記録として残る」イベントは人口減少局面において極めて有効な施策です。</p> <p>内容の高度さや完成度よりも、継続的に実施できる軽量の仕組みとしてのイベント活用について計画上の位置づけを強化することを検討していただきたいです。</p> <p>例えば、村内に点在する戦争遺跡や歴史的資源をデジタルアーカイブ化し、オンライン上で閲覧出来る仕組みを整えることで、村外に住む人々にも美浦村の歴史や魅力を伝えることができます。</p> <p>さらに、現地来訪者向けに AR や VR を活用した体験を提供すれば、現物を大規模に整備することなく、臨場感のある観光体験を実現できます。</p> <p>このように、計画書 26 ページ以降に記された「情報発信の強化」において、デジタルを単なる「広報手段」に留めず、「体験そのものを提供する場」として定義し直すことを提案します。</p> <p>物理的な来訪が困難な層に対しても、デジタルを通じて美浦村のストーリーや特産品の背景に触れる機会（非来訪型体験）を提供することは、将来的な「熱量の高いファン」の育成に直結します。</p> <p>ハード整備による物理的な集客数という単一の指標だけでなく、デジタル空間でのエンゲージメントや、そこから派生する EC などを通じた経済循環を評価指標に加えることで、28 ページに掲げる「持続可能な観光推進体制」はより強固なものになると確信します。</p>	<p>【イベントの位置付けについて】</p> <p>ご指摘のとおり、本計画ではイベント開催を主に「来訪のきっかけ」「PR 手段」と位置付けております。</p> <p>関係人口創出の視点で継続的なイベントを実施することは、主に重点プロジェクトⅡ、重点プロジェクトⅢで掲げている、ファンクラブ創設や体験プログラム造成の一環として有効であると考えます。上記取組は今後の計画期間で内容を検討するため、計画への記載は控え、取組時の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>【デジタル技術を活用したオンライン上での繋がり創出について】</p> <p>ご指摘のとおり、デジタル空間を活用したオンライン上での体験は、物理的な距離に捉われず繋がりを創出できる点で、有効であると考えます。リソースが限られる中、本計画ではまずは実際に来訪してもらうことに焦点を当てておりますが、今後の参考とさせていただきます。</p>	B
---	---	---	---

5	<p>【観光客数ではなく「地域への経済効果」を指標とすべき点】</p> <p>デジタル技術の活用について、主に情報発信やデータ分析の文脈で記載されていますが、体験そのものを拡張・代替える手段としてのデジタル活用も、今後の美浦村観光において重要な視点になると考えます。</p> <p>例えば、史跡・戦跡などの文化遺産を、バーチャルコンテンツとして村外からも体験可能にすることは、来訪を前提としない関係人口の創出、および記憶継承と観光の両立に資する取り組みとなりえます。</p> <p>デジタルを「補助的手段」に留めず、来訪しなくても関われる観光の形として位置付ける検討を期待します。</p> <p>例えば、レジャー目的で来訪し、短時間滞在して消費行動をほとんど伴わないケースと、飲食や宿泊、地域サービスの利用を通じて村内でお金を落とす来訪とでは、地域経済への影響は大きく異なります。単純な来訪者数の増加ではなく、どのような形で地域に経済的効果をもたらしているかを評価指標として明確にすることが重要だと考えます。21 ページに記載のあるデータ活用についても、単に来訪者の属性を分析するだけでなく、その来訪が「村内のどの事業者に、どれだけの経済循環を生んだか」という地域への波及効果を可視化・分析する指標として、活用すべきです。</p> <p>こうした客観的データをもとに、24 ページで掲げられている「観光マネジメント (PDCA サイクルの構築)」において、単なる客数の増減ではなく、「住民一人当たりの所得向上」や、「地域経済の持続性」を評価の軸に据えることを提案します。</p> <p>外から人を呼ぶことが、結果として「この村に住み続けたい」という村民のQOL(生活の質)の向上に直結し、着実に地域が潤い続ける(先細りしない)仕組みづくりを、本計画の最優先事項として再定義することを強く要望いたします。</p>	<p>ご指摘のとおり、観光における経済効果が地域に還元されることは重要な視点と捉えており、P1「計画の基本的な考え方」においても、計画策定の目的を「観光分野の経済効果を拡大し、美浦村全体の経済活性化に繋げる」と位置付けております。</p> <p>本計画期間は、施策 14 に掲げるとおり、観光データ分析の体制を整備していく段階と考えており、経済効果の指標についても、検討を進めてまいります。ご指摘を受け、P24 施策 14 に「観光関連施設の売上高調査等」を追記しました。</p>	A
---	--	--	---

6	<p>「交流人口」と「関係人口」について、P18では、観光で美浦村を訪れる人を「交流人口」、より深く地域と関わる人を「関係人口」と定義されています。ここで言う「より深く地域と関わる人」には、当該地域に頻繁に訪れる人だけではなく、寄付等を通じて、訪問せずとも地域と深く関わる人も含めて考えることが多いかと思います。(小田切徳美(2024)『に含やかな過疎をつくる』農文協など。)しかしながら、P27では、基本的な考え方の2行目に「その後も継続して美浦村に訪れる関係人口とするための取組みを…」とあり、訪れることが前提となっています。美浦村には頻繁には訪れないものの、「美浦村ファンクラブ」(同ページの「プロジェクトの全体イメージ図」内に記載)への寄付等を通じて地域に深く関わる人なども想定すると、2行目の文言は、「訪れる」と限定せず、「その後も継続して美浦村と関わりをもつ関係人口・・・」などに変更することを提案いたします。</p>	<p>ご指摘のとおりですので、P27の表記を「その後も継続して美浦村と関わりをもつ関係人口」に修正いたしました。ふるさと納税制度の活用をはじめ、訪れるだけではない繋がりについても検討してまいります。</p>	A
---	---	---	---

7	<p>P27 の目標値の表の欄外に、「交流人口＝ファンクラブの会員数、関係人口＝地域イベントへの村外ボランティア参加者数と定義」とありますが、その上のロードマップイメージの表を見ると、「村内資源を活用したイベントの開催」について、R8年からR12年まで「継続して実施」とあります。これらのイベントに参加した人を「交流人口」、ファンクラブの会員数を「関係人口」とせずに、ファンクラブの会員数だけを交流人口と定義することにはどのような意図があるのでしょうか。（この定義であれば、イベントには参加するが、ファンクラブに加入しない人は、「交流人口」としてカウントされないことになり、「交流人口＝美浦村を訪れる人」という本来の定義からは外れると思います。あるいは、ロードマップにあるイベントは、ファンクラブのメンバーだけを対象として実施することを想定しているため、ファンクラブの会員数＝交流人口としているのでしょうか。）</p>	<p>イベント実施に関しては、ファンクラブのメンバーに限定せず、広く実施することを想定しております。</p> <p>美浦村のファンを獲得する、という本プロジェクトの主旨を踏まえて、目標値を「交流人口の創出（ファンクラブの会員数）」「関係人口の創出（地域イベントへの村外ボランティア参加者数）」としていましたが、ご指摘のとおり、その他の交流人口、関係人口を排除している誤解を与える表現だったため、交流人口、関係人口の表記を削除し、「ファンクラブ会員数」「イベントへの村外ボランティア参加者数」と修正しました。</p> <p>なお、「ファンクラブの会員数」を「関係人口」とするご指摘につきまして、村としては、関係人口はより深く美浦村と関わり、地域づくりに参画する人材と捉えており、ファンクラブの会員数はあくまでも「交流人口」とみなしております。</p>	A
---	---	--	---

8	<p>P26 の重点プロジェクト I 及び P28 の重点プロジェクト III の「プロジェクトの全体イメージ」の図中にある「協議の場（ワークショップ等）」の参加主体に「村民」が含まれていませんが、一般の地域住民（村民）の参加は、想定されていないのでしょうか。このような場を村民にも開放することにより、P25 の施策 17 「村民と一体となった観光振興施策の推進」につながると考えます。</p>	<p>本計画期間において、確実にプロジェクトを推進していく観点から、村民に広くワークショップの場に参加いただくことは、現時点では想定しておりませんが、ご指摘のとおり、滞在モデルや体験プログラムの造成に、村民の意見を取り入れることは重要と認識しており、検討の途中段階で村民から広く意見を募集する機会を設ける、モニターツアーに参加いただき、ブラッシュアップの意見を頂戴するなど、村民と一体となった観光振興施策の推進に向けて、取り組んでまいります。</p> <p>なお、村民の意見聴取の取組については、P26、P28 の重点プロジェクトの全体イメージに明記しました。</p>	A
---	---	--	---